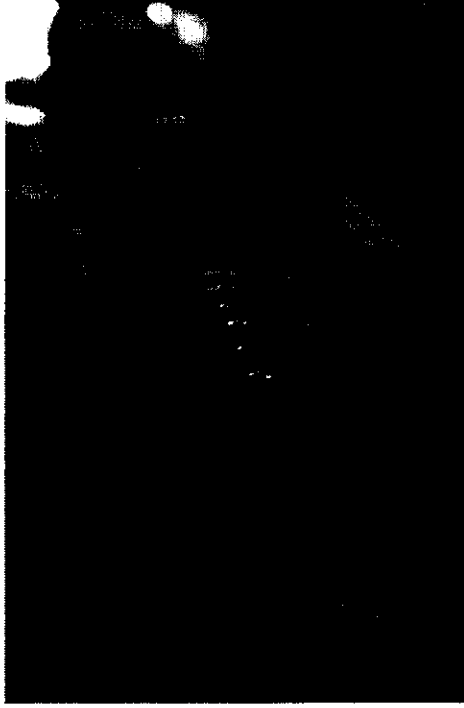


平成27年度

シ
ラ
バ
ス



3 学 年

北海道おといねっぷ美術工芸高等学校

教科名	国語	科目名	国語表現	学年	3 学年
教材	教科書	国語表現		単位数	3
	副教材	パスポート国語必携		履修区分	共通
学習の目標	1 話す・聞く能力、書く能力を総合的に育てます。				
	2 言語事項に関する知識、理解を深めます。				
	3 国語への関心・意欲・態度を育てます。				
学習の進め方	1 小テストを行う他、課題の提出があります。				
	2 グループ学習などを通じた言語活動で国語力を育てる他、国語常識の基礎を学習します。				
	3 俳句・作文などを作り、コンクールに応募します。				

期 月	単元名	具体的な学習内容	備考欄		
前	4	○オリエンテーション ○書いて伝える ○表現を楽しむ	・国語表現の学習について ・整った文章を書く ・詩歌を楽しむ	学習規律の徹底	
	5	○声とコミュニケーション ○書いて伝える	・リーダーズシアターを開こう ・わかりやすい文を書く	コンクールへの応募	
	6	○自己PRと面接 ○メディアを駆使する	・志望動機をまとめよう ・通信文を書き分ける	〔中間考査〕ノート提出 コンクールへの応募	
	7	○表現を楽しむ	・「学校」のパンフレット作り		
	8	○表現を楽しむ ○声とコミュニケーション	・言葉で遊ぶ ・ショートスピーチをしよう	コンクールへの応募	
	9	○小論文・レポート入門 ○自己PRと面接	・小論文とは何か ・レポートを書く ・面接にチャレンジ	〔期末考査〕ノート提出	
	前期目標				
	後	10	○メディアを駆使する ○小論文・レポート入門	・メディアと情報 ・発想を広げて書く	コンクールへの応募
		11	○会話・議論・発表 ○表現を楽しむ	・議論して結論を出す ・演説合戦に挑戦	
12		○表現を楽しむ ○会話・議論・発表	・魅力的なポスターを作ろう ・プレゼンテーションの工夫	〔学年末考査〕ノート提出	
1			・総合演習		
2					
3					
後期目標					

評価方法	・定期考査・小テストの成績、課題の内容や提出状況、日常の授業への参加態度等で評価します。 ・国語科の観点別学習状況の評価の4観点に立ち総合的に評価します。		
評価の観点	【関・意・態】	・国語や言語文化に対する関心を持っているか。積極的に授業に参加しているか。	
	【話・聞】	・自分の考えを論理的に述べたり、相手の考えを尊重し話し合っているか。	
	【書】	・自分の考えを深め、目的や場面に応じた文体など表現を工夫しているか。	
	【知・理】	・表現、理解のための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字を身につけたか。	

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	学年	3学年
教材	教科書	高等学校世界史A 最新版(清水書院)		単位数	2
	副教材	高等学校世界史A 最新版ノート・問題集(清水書院)		履修区分	共通
学習の目標	1 世界の歴史の基本的事項を当時の時代背景や日本の歴史と関連づけて理解します。				
	2 記述的知識だけではなく、歴史に対する多面的な視点を養います。				
	3 時代毎の世界の国々の位置関係や国名等を身につけます。				
学習の進め方	1 前期は教科書の内容を中心に、17・18世紀以前の世界の歴史を学びます。				
	2 後期は教科書の内容を中心に、17・18世紀以後の世界の歴史を学びます。				
	3 学期毎にレポート課題を行い、単元毎にワークを使用し、理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等	
前	4	○オリエンテーション ○東アジア世界	・世界史Aの学習について ・中国文明 ・東アジアの文化圏の形成	※単元毎にワークを提出します。	
	5	○南、東南アジア世界	・古代インド文明 ・ヒンドゥ教とイスラーム教 ・東南アジア文明	・小テスト	
	6	○イスラーム世界	・都市文明の伝統 ・イスラーム世界の形成 ・イスラーム世界の拡大	・中間考查 ・ファイル提出	
	7	○ヨーロッパ世界	・ギリシア、ローマ文明 ・東西ヨーロッパの成立 ・西ヨーロッパの成長と変動		
	8	○大航海時代	・大航海時代 ・アメリカ植民地の誕生		
	9	○課題レポートI	・各国の歴史を日本との結びつきから調べてレポートに表現します。	・期末考查 ・ファイル提出 ・課題レポートI	
	前期目標				
	後	10	○17・18世紀の世界	・清とロシア ・イスラーム世界 ・ヨーロッパの主権国家体制	・小テスト
		11	○ 欧米近代社会の展開	・ヨーロッパ諸国の世界進出 ・イギリス産業革命 ・アメリカ合衆国の成立	
12		○ アジア・アフリカの変貌	・フランス革命 ・自由主義運動、帝国主義 ・西アジア～東南アジアの変貌	・中間考查 ・ファイル提出	
1		○世界戦争の時代	・清朝末期の中国と日本の近代化 ・アジア諸国の民族運動 ・第一次世界大戦	・期末考查 ・ファイル提出	
2			・ヴェルサイユ体制 ・世界恐慌とファシズムの台頭 ・第二次世界大戦		
3		○米ソ冷戦 ○課題レポートII	・冷戦の展開とその様子 ・資本主義と社会主義陣営の違いをレポートで表現します。		・課題レポートII
後期目標					

評価方法	・定期考查・小テストの成績、ワークやファイルの提出状況、レポートやワークシートの内容、日常の授業への参加態度等で評価します。 ・地理歴史科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。				
評価の観点	【関意態】	歴史に対する関心と課題意識を持っているか。積極的に授業に参加しているか。			
	【思判表】	歴史を多面的な視点で捉えているか。レポートの表現方法や内容が適切か。			
	【技能】	資料の選択・活用が適性か。時代毎の国名や位置を把握できているか。			
	【知理】	諸地域の歴史過程の基本的事項を身につけているか。			

教科名	数学	科目名	数学A	学年	3学年
教材	教科書	新編 数学A (東京書籍)		単位数	2
	副教材	ニューアシスト 新編 数学A (東京書籍)		履修区分	共通
学習の目標	1 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深める。				
	2 場合の数と確率を事象の考察に活用できるようにする。				
	3 整数や図形の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。				
学習の進め方	1 前期は教科書の内容を中心に、集合、場合の数、確率を学ぶ。				
	2 後期は教科書の内容を中心に、整数のさまざまな性質を学ぶ。				
	3 週ごとに週末課題をワークから出して提出させ、学習習慣を確立しつつ理解を深める。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○集合と場合の数	・数学Aの学習について ・集合と要素の個数	*年間を通して小テストを行っていく
	5	○集合と場合の数	・数え上げの原則 ・順列	
	6	○集合と場合の数 ○確率とその基本性質	・組合せ ・事象と確率	・中間考査 ・ノート提出
	7	○確率とその基本性質	・確率の基本性質	
	8	○いろいろな確率	・独立な試行の確率 ・反復試行の確率	
	9	○いろいろな確率	・反復試行の確率 ・条件つき確率	・期末考査 ・ノート提出
前期目標				
後	10	○整数の性質	・約数と倍数、素因数分解	
	11	○ユークリッドの互除法と不定方程式	・除法の性質と整数の分類 ・ユークリッドの互除法	
	12	○ユークリッドの互除法と不定方程式	・不定方程式	・中間考査 ・ノート提出
	1	○整数の性質の利用	・記数法	・学年末考査
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	・定期考査、小テストの成績、週末課題やノートの提出状況、日常の授業への参加態度等で評価する。 ・数学科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価する。
評価の観点	【関・意・態】 週末課題の提出割合、ノートの作成状況、日常の授業への参加態度等。
	【数学的見方】 授業やノートで、問題の解き方が多面的、発展的になされているか等。
	【数学的スキル】 小テストの成績等。
	【知・理】 定期考査。

教科名	理科	科目名	地学基礎	学年	3 学年
教材	教科書	地学基礎		単位数	2
	副教材	新課程 リードLightノート 地学基礎		履修区分	共通
学習の目標	1 宇宙の誕生から現在の地球に至るまでを時間的・空間的な広がりの中でとらえる。				
	2 観察・実験を通して、地学的に探究する能力と態度を身につける。				
	3 地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、地学的な見方や考え方を養う。				
学習の進め方	1 教科書を中心に、地学についての基本的な原理や法則を理解します。				
	2 実験や観察を通して、科学的に考え、探究する力を身につけます。				
	3 プリントやレポートを通して自身の考えを表現する力を身につけます。				

期 月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	第1編 惑星としての地球 ・太陽系の中の地球 ・地球の形と大きさ ・地球の構造		
	5	第6編 宇宙の構成 ・太陽と恒星 ・宇宙のすがた	・小テスト	
	6	第4編 移り変わる地球 ・地層の形成	・中間考査 ・ノートファイル提出	
	7			
	8	・古生物の変遷と地球環境		
	9	第2編 活動する地球 ・プレートの運動とそれに伴う現象	・期末考査 ・ノートファイル提出	
	前期目標			
	後	10	・火山 ・地震と地殻変動	・小テスト
		11	第3編 大気と海洋 ・地球の熱収支 ・大気と海洋の運動	
12		第5編 地球の環境 ・環境と人間 ・日本の自然環境	・中間考査 ・ノートファイル提出	
1			・学年末考査	
2				
3				
後期目標				

評価方法	・定期考査、小テストの成績、プリントの取り組み状況、宿題の提出状況、レポート等の表現力、実験・観察レポートの内容で評価します。 ・理科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。
評価の観点	【関・意・態】 宿題、提出物、レポートの提出状況。ノートファイルの整理。
	【思・判・表】 ビデオレポートや実験レポート、プレゼンテーションの内容。
	【技能】 実験・観察レポート。
	【知・理】 定期考査・小テスト。

教科名	保健体育	科目名	体育	学年	3学年
教材	教科書	現代保健体育		単位数	3
	副教材	ステップアップ高校スポーツ		履修区分	共通
学習の目標	1 体育活動をとおして、行動力と精神力を養います。 2 進んで運動に取り組み、公正、協力、責任などの態度を身につけます。 3 健康・安全に留意して運動する能力を身につけます。				
学習の進め方	1 3年生は体力テスト、体づくり、器械運動、水泳、陸上、球技、スキーを実施します。 2 基本的には一斉授業ですが、班活動による集団としての学習を推進します。 3 地域の特性を利用し、自然との触れ合いを通して健康、体力の保持増進を目指します。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○体力テスト ○体づくり運動 ○体育理論	・シャトルランによる体力診断 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	・班づくりと準備体操づくり
	5	○器械運動（選択）	・マット運動と跳び箱運動のいずれかを選択し、技能の向上を目指します。	・発表会の実施
	6		・豊かなスポーツライフの設計	・前期中間考査
	7	○球技	・ソフトボール（捕、投、打の基本技能を習得し、ゲームを楽しみます。）	・ルールと審判法の習得
	8	○水泳	・平泳ぎの習得（大きなストロークで泳ぐ）	
	9	○陸上競技	・長距離走長距離走（トレッキング、ウォーキングジョギング）	・競歩記録会の実施 ・前期期末考査
前期目標				
後	10	○球技 ○体育理論	・バスケットボールとバレーボール（チームで作戦を立て、協力し攻守に取り組みます。）	・ルールと審判法の習得 ・技能テストの実施
	11			・後期中間考査
	12			
	1	○スキー、スノーボード	・安全に留意し、マナーを守りスキーやスノーボードを楽しみます。	
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	・実技の能力だけでなく、運動に取り組む意欲や、公正、協力、責任などの態度、ルールや審判についての知識や技能などを、総合的に評価します。		
評価の観点	【関意態】	・運動やスポーツに、積極的に取り組んでいるか。	
	【思判】	・安全の確保に努め、仲間と協力して運動に取り組んでいるか。	
	【知理】	・ルールや審判法について理解しているか。	
	【技能】	・運動技能が上達しているか。	

教科名	外国語	科目名	英語表現 I	学年	3 学年
教材	教科書	New ONE WORLD Expressions I Workbook (教育出版)		単位数	3
	副教材	Expressways I Standard Edition ワークブック 英単語ターゲット1400 (旺文社) Listening Box 1(啓林館)		履修区分	共通
学習の目標	1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2 事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える。 3 言語やその運用について知識を身につけ、背景にある文化を理解する。				
学習の進め方	1 教科書を中心に、様々な表現を聞いて理解できる力をつけます。 2 ペア・グループワーク、ALTとの面接や様々な課題などで表現力を高めます。 3 ワークやプリントの提出、発表の機会を通して、学習内容の理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	オリエンテーション L1 My Name Is Matthew Smith	・学習の進め方を説明します。 ・現在形や現在進行形を用いた、自分や友だちを紹介する表現	※単元毎にワークを チェックします。
	5	L2 I'm Going to Have a Small Party	未来表現を用いた、未来の計画や予測を表す表現	・小テスト ・プリント
	6	L3 Can You Play Tennis Tomorrow? Expressions in Use 1	・助動詞can, couldを用いた、依頼や許可を表す表現 ・買い物をするときの表現	・中間考查 ・ファイル提出
	7	L4 Have We Met Before? L5 You Must Follow Our School Rules	・過去形、現在完了形 ・助動詞must, should, mayを用いた、義務や許可を表す表現	・小テスト ・プリント
	8	L6 What a Beautiful Kimono!	・受け身を用いた、事物を説明したり描写したりする表現	
	9	Expressions in Use 2 L7 How Was Your Summer Vacation?	・食事の注文をするときの表現を学習する。 ・to不定詞や動名詞を用いた、経験・目的・理由を表す表現	・期末考查 ・ファイル提出
	10	L8 I'm Looking for a Smaller Store L9 I Read Comics as Often as I Read Novels	・比較級や最上級を用いた、事物を比較する表現 ・同等比較や倍数比較	
	11	L10 This Is a Book to Read L11 These Are Photos Taken by Her	・前置詞句や不定詞による後置修飾を用いて、説明・描写する表現 ・現在分詞・過去分詞による後置修飾	・小テスト ・プリント
	12	L12 A Partner Who Does Housework L13 You Can Live in a Country Where English Is Spoken	関係代名詞who, which, thatを用いた、説明・描写する表現 ・関係副詞when, where, whyを用いた表現	・中間考查 ・ファイル提出
後	1	L14 If I Were You, I Would Practice Harder than Before L 15 If We Continue Using Oil,...	・仮定法過去を用いた、願望を表す表現、助言や提案をする表現 ・接続詞を用いた、仮定に基づいて説明する表現	・学年末考查 ・ファイル提出
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	・定期考查・小テストの成績、ファイルやプリントの提出状況、日常の授業への参加態度等で評価します。積極的にペアワークやグループワークに参加すること。 ・英語科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。	
評価の観点	【関意態】	積極的な態度で言語活動に参加し、コミュニケーションを図ろうと努力している。
	【表現】	事実や意見などを、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えられる。
	【理解】	英語を聞いたり読んだりして理解し、概要や要点をとらえたりすることができる。
	【知識】	英語やその運用について知識を身につけ、言語の背景にある文化等を理解する。

教科名	美術	科目名	素描	学年	3学年
教材	教科書	なし		単位数	1
	副教材	なし		履修区分	選択
学習の目標	1 対象のイメージや空間を把握し、造形表現の基礎となる観察力と描写力を高める。				
	2 デッサンや鑑賞を通して、感性を高めるとともに、自己の在り方生き方を見つめ、豊かな心情を育てる。				
学習の進め方	1 造形表現の基礎であるデッサンを繰り返し行い、技術を身に付ける。				
	2 様々な素材を組み合わせたモチーフをイメージの違いや空間をとらえながら描くことで、表現の方法を学ぶ。				
	3 作品を鑑賞し、描き方、良さを感じ取り、表現の工夫に生かす。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	オリエンテーション 鉛筆デッサン	①年間指導計画と評価について理解する。 ②授業の約束を確認する。 ③道具の扱い方や形の取り方のおさらいをする。	・学習の見通しを持つ。 ・昨年度購入した道具を引き続き使用する。	
	5	木炭デッサン (静物)	①木炭の扱い方を学ぶ。 ②複数のモチーフを組み合わせる。 ③鑑賞会	・形は粘り強く正確にとること。 ・面と空間を意識して描く。	
	6	木炭デッサン (石膏像)	①石膏像 (上半身) のデッサンをする。	・人間の骨格をつかむ。 ・面を意識し、立体的に描く。	
	期	7	鉛筆デッサン (人体)	①クロッキー ②人体デッサン ③鑑賞会	・質感、表情、動きをとらえる。
		8	鉛筆デッサン (構成)	①構成デッサン	・主題をもとにモチーフを構成する。
9		鉛筆デッサン (構成)	①構成デッサン ②鑑賞会	・今後の制作につなげる。	

評価方法	授業中の取り組みの様子と課題の提出、技術力により総合的に評価する。	
評価の観点	【関・意・態】	集中し、積極的に授業に臨んでいるか。
	【発想・構想】	対象物をよく見てとらえ、空間を意識して画面上に構成できるか。
	【技能】	デッサンの基本的な技能が身についているか。
	【鑑賞】	自分や他者の作品を見て、感じたことや考えたことを言葉で伝えられるか。

教科名	芸術 (美術)		科目名	美術研究	学年	3
教材	教科書				単位数	4
	副教材				履修区分	選択
学習の目標	1 油彩画の技法について学び、表現や鑑賞の視点を広げ、独自の表現力を身につける。 2 絵画の制作活動や鑑賞を通して、西洋文化と日本文化に触れ、感性を高める。 3 ポートフォリオ作成をとおして自己の在り方生き方を見つめ、豊かな心情を育てる。					
学習の進め方	1 ポートフォリオを作成し、自身のこれまでの制作を振り返り、主題を設定します。 2 F100号サイズの油彩画を制作し、自己の表現について発表します。 3 名作や自他の作品を鑑賞し、歴史や表現の特質、お互いの良さについて学びます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○構想	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の活動について ・ポートフォリオについて ・ポートフォリオ作成 	※資料はインターネットや出版物に頼るのではなく、自分の力で集めること。 ・主題・制作の振り返りと今後の見通しについて ※キャンパスの組み立て、キャンパス張りは一人で行わずお互い協力して行うこと。 ・主題・制作の振り返りと今後の見通しについて ・鑑賞
	5	○習作の制作	<ul style="list-style-type: none"> ・資料収集、モチーフ取材 ・エスキース ・主題設定 ・技法の検討 	
	6	○習作発表	<ul style="list-style-type: none"> ・習作を鑑賞 	
	7	○本制作	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス組み立て ・下描き ・下地づくり ・彩色 	
	8			
	9			
前期目標				
後	10	○本制作中間発表 ○本制作	<ul style="list-style-type: none"> ・再検討 ・修正 	
	11			
	12	○仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・細部描込み ・微調整 ・額つけ 	
	1	○卒業制作発表準備 ○卒業制作発表		<ul style="list-style-type: none"> ・発表 ・鑑賞
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	課題提出状況、課題に対する創造力、技術力、授業への意欲・態度、発表内容等により総合的に評価します。	
評価の観点	【関・意・態】	自己の制作に向き合い、意欲的に取り組むことができたか。
	【発想や構想】	適切な主題を設定し、実現に向けた構想をねることができたか。
	【創造的技能】	技法や画材の特性を理解し、設定した課題に効果的な表現ができたか。
	【鑑賞の能力】	自他の表現の意図や工夫を感じ取り、味わうことができたか。

教科名	工芸	科目名	図法・製図	学年	3
教材	教科書	インテリア製図 (コロナ社)		単位数	2
	副教材			履修区分	必修
学習の目標	1 製図用具・ソフトの使用法を習得し、日本工業規格に則り図面を作成する能力を養う。				
	2 図面を通して、自分の考えや情報を的確に表現し、伝える力を身につける。				
	3 卒業制作の構想をもとに図面を作成し、制作に向けての検討を行います。				
学習の進め方	1 構想をもとに、卒業制作の図面を作成します。				
	2 実習教科における製材や加工をもとに、改善点や修正点について検討します。				
	3 並行してポートフォリオやレポートを作成することで更に構想を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	オリエンテーション	○年間指導計画・学習の心構え・評価方法について	途中経過図面提出 「卒業制作」
	5	図面作成 「卒業制作」	○構想・スケッチ・略図をもとに実際に図面を作成します。	
	6	ポートフォリオ作成 (美術コース) レポート作成 (工芸コース)	○ドラフターまたはJw-cadを使用して外観図(第三角法・等角投影法)・部品図を作成します。	
	7		○ポートフォリオを作成して3年間の制作を振り返ります。	
	8		○レポートを作成してコンセプトから図面、加工に至る卒業制作に関わる制作過程をまとめます。	
9			途中経過図面提出 「卒業制作」	

前期目標	
------	--

後	10	図面作成 「卒業制作」	○構想・スケッチ・略図をもとに実際に図面を作成します。	完成図面提出 「卒業制作」 完成提出 「レポート」 「ポートフォリオ」
	11	ポートフォリオ作成 (美術コース) レポート作成 (工芸コース)	○ドラフターまたはJw-cadを使用して外観図(第三角法・等角投影法)・部品図を作成します。	
	12		○ポートフォリオを作成して3年間の制作を振り返ります。	
	1		○レポートを作成してコンセプトから図面、加工に至る卒業制作に関わる制作過程をまとめます。	
	2			
3				

後期目標	
------	--

評価方法	図面の途中経過、完成図面の提出、ポートフォリオやレポート作成に至る過程での取り組みにより評価します。
------	--

教科名	工芸	科目名	課題研究	学年	3
教材	教科書			単位数	6
	副教材			履修区分	共通
学習の目標	1 工芸科目を通して学んだ技術を応用し、創造的に発展させた作品制作の力を育てます。				
	2 制作の過程を通し、造形的視野を広めるとともに、感性を磨き、豊かな人間性を養います。				
学習の進め方	1 1年間をとおした制作の計画を立てます。題材は個々が設定し、工芸制作への知識と理解を深めます。				
	2 過去に制作された作品や書籍などの資料を活用し、自らの作品をより高める工夫をしていきます。				
	3 これまでの工芸科目で学んだ知識や技術を積極的に作品に取り入れていきます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	オリエンテーション 制作計画	・1年間の課題の進め方 ・制作に向けた試作と計画 ・構想、設計	・制作課題をどのような手段で達成するかを考える	
	5	制作	・縮尺模型、プロトタイプ ・再検討、実制作	・制作の段取りを把握する	
	6				
	7				
	8				
	9	制作進捗の確認	・進め方の再検討	・自らの制作過程を振り返り進め方を再検討する	
	前期目標				
	後	10			
		11			
12		1年間のまとめ	・作品の完成と提出	・自らの制作をふりかえることで成果を確認する	
1		資料の整理	・制作のまとめ	・他者との学びを共有する	
2					
	3				
後期目標					

評価方法	評価の観点をもとに計画の進め方、制作、制作資料から経過ごとに総合的に行う。		
評価の観点	【関・意・態】	制作課題の設定と計画をもとに制作を進めることができたか	
	【発想・構想】	制作課題を自らの意図と繋がるように制作を考えていくことができたか	
	【創造的技能】	制作課題に対しての技法、表現を深めていけたか	
	【鑑賞の能力】	他者の取り組みや制作物を通し、自らの制作意識を高めることができたか	

教科名	工芸	科目名	工芸研究	学年	3
教材	教科書			単位数	5
	副教材			履修区分	工芸
学習の目標	1 選択工芸科目を含め、学んだ技術を総合的に応用、創造的に発展させた作品の制作を目標とします				
	2 制作の過程をとおして、造形的視野を広めるとともに、感性を磨き豊かな人間性の形成を目指します。				
	3 選択教科として密度のある専門性を高めた造形的作品の制作を目指します。				
学習の進め方	1 1年間の制作計画を立てます。題材は個々が設定し、構想と基本的な設計を相談しながら進めていきます。				
	2 過去に制作された作品や書籍などの資料を活用し、自らの作品をより高める工夫をしています。				
	3 これまでの選択科目で学んだ知識や技術を積極的に作品に取り入れていきます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	オリエンテーション テーマの設定	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の課題の進め方 テーマの設定と計画 構想、設計 	<ul style="list-style-type: none"> テーマをどのような手段で達成するかを考える 	
	5	制作	<ul style="list-style-type: none"> 縮尺模型、プロトタイプ プレゼンテーション、再検討 実制作 	<ul style="list-style-type: none"> 研究のテーマが制作物に、どうつながるかを考える 	
	6				
	7	中間発表	<ul style="list-style-type: none"> テーマと制作についての発表 	<ul style="list-style-type: none"> 発表をもとに実制作とテーマとのつながり方を確認する 	
	8				
	9	制作進捗の確認	<ul style="list-style-type: none"> 進め方の再検討 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの制作過程を振り返り進め方を再検討する 	
	前期目標				
	後	10			
		11			
12		1年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 作品の完成と提出 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの制作をまとめることで成果を確認する 	
1		資料の整理	<ul style="list-style-type: none"> 研究のまとめの制作と提出 	<ul style="list-style-type: none"> 他者との学びを共有する 	
2					
	3				
後期目標					

評価方法	評価の観点をもとに計画の進め方、制作、制作資料から経過ごとに総合的に行う。		
評価の観点	【関・意・態】	テーマの設定と計画をもとに制作を進めることができたか	
	【発想・構想】	テーマと繋がるように制作を考えていくことができたか	
	【創造的技能】	テーマに対しての技法、表現を深めていったか	
	【鑑賞の能力】	他者の取り組みや制作物を通し、自らの制作意識を高めることができたか	

11/11/11
11/11/11
11/11/11

•
•
•
•